

薬理学C

(Pharmacology C)

担当教員

教授 加藤 伸一
 講師 天ヶ瀬 紀久子
 助教 松本 健次郎

科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等
薬学専門教育（講義）	3年次 前期	講義	1.5単位	必修

【概要】

薬理学は、薬物が生体に及ぼす種々の反応およびその作用機序について学ぶものであり、臨床における薬物療法の基礎となる科目である。また薬理学は、生物学、生化学、解剖学、生理学などとも密接に関連しており、これらの既習の基礎知識の応用も必要となる。講義では、正常時および病態時における生体の仕組みを理解した上で、薬物の作用機序、安全性、体内動態などについて概説する。

【授業の一般目標】

薬理学Cでは、ホルモンと薬、代謝系に作用する薬、呼吸器系に作用する薬、消化器系に作用する薬、炎症・アレルギーと薬、および血液・造血器系に作用する薬などについて、作用機序、適応症および副作用を理解し、習得する。

【準備学習(予習・復習)】

教科書の該当箇所を目を通すとともに、生理学等の該当箇所を復習するなど、予習した上で講義に出席すること。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	消化器系に作用する薬（1）	松本	代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬などの消化器疾患に対する治療薬を挙げ、その作用機序などを説明できる。 代表的な催吐薬・制吐薬、胃運動調節薬、腸疾患治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	C13-(3)-2-1,2,3 C13-(3)-7-1
2	消化器系に作用する薬（2）	松本	代表的な肝臓疾患治療薬、膵臓疾患治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	C13-(3)-2-4,5 C13-(3)-7-1
3	ホルモンと薬（1）	天ヶ瀬紀	ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C13-(3)-1-1 C13-(3)-7-1
4	ホルモンと薬（2）	天ヶ瀬紀	代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C13-(3)-1-2 C13-(3)-7-1
5	ホルモンと薬（3）	天ヶ瀬紀	代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C13-(3)-1-3 C13-(3)-7-1
6	代謝系に作用する薬（1）	天ヶ瀬紀	代表的な高尿酸血症治療薬・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C13-(3)-5-3 C13-(3)-7-1
7	代謝系に作用する薬（2）	天ヶ瀬紀	カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C13-(3)-5-4 C13-(3)-7-1
8	呼吸器系に作用する薬	天ヶ瀬紀	代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)-5-1,2,3
9	炎症・アレルギーと薬（1）	加藤	炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C-10-(2)-1-2 C13-(3)-6-1 C13-(3)-7-1
10	炎症・アレルギーと薬（2）	加藤	慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C13-(3)-6-2 C13-(3)-7-1
11	炎症・アレルギーと薬（3）	加藤	アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基	C-10-(2)-1-1 C13-(3)-6-3 C13-(3)-7-1

			本構造を示すことができる。	
12	血液・造血管系に作用する薬(1)	加藤	代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C13-(3)-4-1 C13-(3)-7-1
13	血液・造血管系に作用する薬(2)	加藤	代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C13-(3)-4-2 C13-(3)-7-1
14	血液・造血管系に作用する薬(3)	加藤	代表的な造血薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。代表的な薬物について基本構造を示すことができる。	C13-(3)-4-3 C13-(3)-7-1
15	総括・まとめ			

(書名)
教科書 最新基礎薬理学

(著者・編者)
竹内孝治、岡淳一郎 編集

(発行所)
廣川書店

【成績評価方法・基準】

定期試験(100%)の結果により評価する。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

オフィスアワー：火・水・木の17:00～18:00
授業内容に関する質問がある場合には、各教員に事前にメールにて確認してから来て下さい(薬物治療学分野；愛学館5F)。